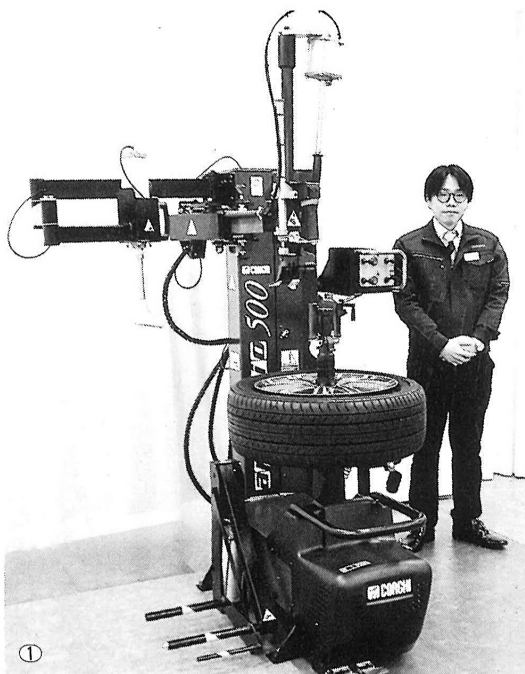


整備機器

新商品

東洋精器工業(株)

センターロック式タイヤチェンジャー
「ピット A-500」



東洋精器工業はタイヤチェンジャー「PIT(ピット)」シリーズに、センターロック式レバーレスチェンジャー「PIT A-500」をラインアップ。本格販売を開始した。同社はセンターロック式チェンジャーとして、ハイグレードクラスの「PIT A-5000」とスタンダードクラスの「PIT M-897」を上市し展開中。新商品はその中間、ミドルクラスの位置付けとなる。今回の新商品上市によりセンターロック式チェンジャーのラインアップが揃った。商品企画部第二課長の細目玲(ほそのめ れい)さんが商品解説と実演デモを担当してくれた。

復習となるが、タイヤチェンジャーの歴史をひもとくと大きく二つのタイプに変化してきた。スチールホイール全盛期に最初に登場したのがハブ穴で固定するセンターロック式。アメリカンタイプと呼ばれる。これはリム周囲にツールを接触させながらタイヤの着脱を行う方式。もう一つは転倒やスイング機構を備える支柱部を有し、テール板のチャック爪でリムを挟んで固定する

チャッキング式。ヨーロッパタイプと呼ばれる。前者と後者とは機器としてのフォルム(姿・形)や脱着作業の手順が異なる。アルミホイールの普及とともにリムに非接触でタイヤの着脱が可能になった。ヨーロッパタイプへと移行し現在に至る。

かつてクルマをガスタマイズすることがトレンドだった。ドレスアップが大流行した当時、リムのデザインに深みをもたせたディプリムのアルミホイールが登場。なかでもリムハースリムは見た目に偏大口径タイヤやまで

はデザイン性の高いアルミホイールが新車装着されるようになった。それを受けてアフターマーケットでのドレスアップ需要が冷え込み、リハースリムは市場で縮小した。

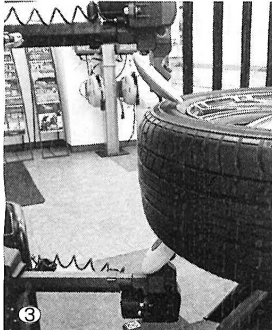
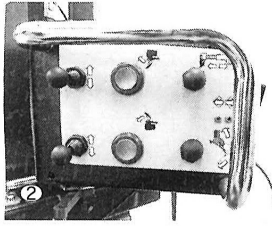
それを背景に、センターロック式レバーレスチェンジャーの需要が急速な伸長をみせ始める。レバーレスユニットを備えた、言わばアメリカンとヨーロッパの究極のハイブリッドタイプだ。セッティングが容易で、ノンリム接触式で労力を要せず、ノーマルから超偏大口径タイヤやまで

ク式ならではの機能を発揮する。たとえば、ロード落し。一般的なヨーロッパタイプは床にタイヤを立てたポジションでアーム式のビッドフレーターを使い作業する。どうしても背を折る中腰の姿勢で力のいる作業を続けなければならぬ。

作業者は操作パネルをオベレーションするだけで背を折らず楽な姿勢をキープしたまま作業を進めることができる。また、ディスクローラー式ビッドフレーターは、ビッド部やホイールに無理な力を加えることなく安全にビッドフレック作業ができることも特徴の一つ。

楽な姿勢でレバーレス作業が可能

コントロールパネルでシンプル操作



作業効率にも優れている。一部ヨーロッパタイプの形状を残しつつも同等以上のユニット剛性を確保した。適用リム径は12〜32インチ。軽自動車からSUV、LTと対応車種は幅広い。最大タイヤ外径200ミリ。スビーディ、優れた作業性はセンターロック式ビッドフレーターが上下にそれぞれ標準装備されていること。また、効果よく表面・裏面のビッド落しができる。

作業者は操作パネルをオベレーションするだけで背を折らず楽な姿勢をキープしたまま作業を進めることができる。また、ディスクローラー式ビッドフレーターは、ビッド部やホイールに無理な力を加えることなく安全にビッドフレック作業ができることも特徴の一つ。

細目さんは「従来のヨーロッパタイプ型のマウントヘッドを継承しており、レバーレス機に苦手意識を持つ人にも受け入れやすい機械に仕上がった」と話す。

レバーレスツールにもヨーロッパタイプに採用。一部のドイツ車やアメリカのタイヤ交換指定機種にも選定されている。

(写真①)PIT A-5000と細目さん、②コントロールパネル、③上下同調機構のフレーカー、④オートマチックでのレバーレス作業シーン